



し
至

せ い
誠

生徒指導部より
種子島中央高等学校生徒指導部 10月号
平成26年10月31日

警報

交通事故 連続発生！！

9月21日（日）～30日（火）に秋の全国交通安全運動が行われましたが、本校では10月上旬に連続して交通事故が発生しました。自転車の事故は転倒による事故、単車の事故はいずれも前方不注意による事故です。10月に入り、下校中はかなり暗くなってきました。今まで以上に注意が必要です。気をつけてください。また、外部の方から単車通学生の交通マナーに対する苦情の電話もありました。スピードの出し過ぎではありませんか？危険な運転をしていませんか？自転車や単車は便利なものであると同時に、非常に危険なものでもあります。これらを使うには、正しい知識と責任が必要となります。単車通学生の皆さんは夏休みに実技講習会も受けました。再度、交通法規の遵守と安全運転を心がけましょう。



1 二期交通安全教室

10月10日（金）の中間考査終了後に種子島警察署交通課の野間義樹さんを講師に招き、「交通安全教室」を実施しました。

まず、事故を防ぐテクニックがまとめられたDVDを視聴し、「確認→予測→判断」の大切さを学びました。

次に、野間さんに講話をいただきました。特に印象が強かったのは、以前担当された事故に触れ、「いつ、どこで、事故に遭うかわからない。交通事故は、自分だけでなく、家族も不幸にする。他人事だと思わないで、気をつけてほしい。」ということでした。また、事故を未然に防ぐために単車点検の重要性も教えていただきました。単車の点検項目を「ネンオシャチエブクトウバシメ」と呼称しながら確認するとよいそうです。本校生徒による10月上旬の事故では、無灯火とライトの故障での運転もありました。車体検査は済ませましたか？ブレーキが利かない、ブレーキランプや方向指示器が点灯しないなどの整備不良は死亡事故につながります。「面倒くさい、その一瞬が命取り」。これは生徒会の交通安全委員会が校内に掲示している交通安全の標語です。面倒くさがらず、すぐに車体の整備をしてください。皆さんの命に関わります。くれぐれも整備不良のまま、運転することがないようにしてください。



ネン	燃料
オ	オイル
シャ	車輪
チ	チェーン
エ	エンジン
ブ	ブレーキ
ク	クラッチ
トウ	灯火類
バ	バッテリー・ハンドル バックミラー
シメ	各部締付

（警視庁HPより掲載）

次に交通安全ファミリー作文コンクール入賞作である徳島県阿波市の会社員大塚達也さんの「繰り返される悲劇に…」を紹介します。

昭和六十年十二月十八日、この日は私にとって生涯忘れることの出来ない日だ。

肌寒く、水溜りには薄氷が浮かぶ早朝、集団登校で学校へと向かう児童の列に未成年の運転する暴走車が突っ込んだ。十一人の重軽傷者を出したその事故は、新聞やニュースでも大きく取り扱われる惨事であった。

当時小学四年生であった私は、左腎臓破裂と左足骨折。加えて頭蓋骨陥没骨折といった重傷を負った。私以外にも、複雑骨折をした幼稚園児や靱帯損傷の児童が多数あり、事故は私たち被害者のみならず学校や地域に暗い影を落とす結果となった。

私は、翌日に六時間の腎臓摘出手術を受け長期の入院生活を余儀なくされた。また、退院後も部活動や体育の授業を制限され、本当の意味での通常生活に戻れたのは高校生になった頃であった。

加害者が十九歳の未成年…両親を含め家族は、謝罪に訪れる彼を激しく叱責し続けた。身動きのとれなかった私は「どうしてこんな目に…この人がちゃんと運転してくれていたなら…」そう思うだけで止めどなく涙が溢れ、堪えようのない怒りに胸が震えたのを昨日のこのように記憶している。

あれから二十七年の歳月が流れたが、今も加害者に対する憎しみの念は変わらない。だが、自らの心の中に複雑な感情が芽生えつつある。

それは、凄惨な事故ほど被害者、加害者双方の人生を狂わせてしまうという思いだ。いや、それだけではない。互いの家族や、様々な人達をも巻き込む壮絶な明日が待ち受けているのだ。これは、誰もがほんの少しの気の緩みや過信で、被害者にも加害者にも成り得ることを意味している。

誰かを恨みながら過ごす毎日や、誰かに恨まれながら生きる日々がどんなに苦しいか想像出来るだろうか？ 恐らくは出来ないだろう。そんな時、ほんの少しでも良いのだ。ハンドルを握る前に『大切な人』を思い浮かべて欲しい。決して、あなた一人の問題ではないのだ。

凄惨な事故に歯止めは掛からないが、一方で私は、そのほとんどが防げる事故だとも感じている。数年前に福岡市職員が起こした、幼い子ども三人が犠牲となった飲酒運転による追突事故。最近では、関越自動車道での高速バス事故や京都府亀岡市の無免許少年による死亡事故。どれも、ほんの僅かイマジネーションを膨らませることで回避が可能な事故だったと思う。

事故が起きた当面は、世間の関心と呼び注目を集める。しかし、風化されるのも早い。繰り返される悲劇はもうたくさんだ。国民一人一人が常に高い意識で安全運転を心掛ける事でしか事故は防げない。近道などは存在しない。それが車社会に生きる私達の務めだと感じている。

この作文を読んでどう思いましたか。国土交通省の社会資本整備審議会で示された資料によると「人生で交通事故に遭う人は、2人に1人」だそうです。もちろん、あくまでも統計上の「確率」で、わずか1年のうちに何度も交通事故に遭う人もいれば、一生涯交通事故に遭うこともない人もいますが、それぐらい多くの交通事故が発生しているということです。交通事故で、被害者にも加害者にもならないように、ハンドルを握る前に『大切な人』を思い浮かべてみましょう。

2 今後の日程

10月27日(月)～	冬服移行期間
11月4日(火)	頭髪服装指導 (再指導6日・最終指導7日)
	地域が育む「かごしまの教育」県民週間(～7日)
5日(水)	2学年PTA
10日(月)	3年卒業アルバム用個人写真撮影①
12日(水)	3年卒業アルバム用個人写真撮影②
13日(木)	自動車学校入校説明会
18日(火)	期末考査時間割発表
25日(火)	期末考査(～28日)
28日(金)	避難訓練